

察となろう。「三権分立」はま

すまず絵に描いたモチとなる。

緊急事態宣言が全国に拡大され、人々が命と暮らしへの危機感を募らせている最中、こうした危険な内容の改正法案の審議を強行することは、許されてはならない。

コロナ対応の「オリンピック」

久保田 竜子
カナダ・ブリティッシュコロンビア大学教授

新型コロナウイルスの世界的蔓延のため、東京オリンピック・パラリンピックは延期となった。日本では、延期が発表になった直後から感染者数が激増し、開催したいがために不都合な数を隠す力が働いていたのではないかという臆測が広がった。

オリンピックとコロナの関係は視点を変えて考えることもできる。オリンピックは速

さ、高さ、多さ、美しさを競う祭典だ。順位がつけられ、上位競技者は晴れの舞台で表彰される。国家間のメダル争奪戦も本来の趣旨に反するとは言え注目の的だ。

翻つて、コロナに関する報道からも国際競争の様相が見える。日本政府は他国より「感染者、死者が少ない」と言ってきた。各国政府の対応ぶりを「競争」と見

立てれば、感染者と死者の数が少ないほど「得点」が高くなる。ただ、日本は検査数が圧倒的に少なく、実際の感染者数や死者数が正確に把握されていない。教を恣意的に少なく見せるのは

ドーピングに等しい。

悲しいことに、公文書改竄や隠蔽を繰り返してきた自民党政権や官僚はルール違反にすっかり慣れてしまっている。

国民とメディアが権力を厳重に監視しなければ、日本はこの国際競争から脱落してしまつてしまう。

海外に目を向けると、死者

数や死亡率を抑えてきた国々のリーダーシップがたたえられている。たとえば台湾、ドイツ、ニュージーランド、韓国などの首脳が現時点ではメダル受賞ということになりそうだ。

早期に体制を整え、検査を積極的に行なって感染を抑えてきたことや国民の目線がわかりやすく何をしたらいいの

6月のテーマ

学校

小学校から高校まで一斉休校が続き、大学の講義もオンライン中心に。新型コロナウイルスの感染拡大によって、「学校」という場の大切さが改めて感じられ、その存在と役割に注目が集まっています。

懸案となってきた教職員の仕事改革の問題もあります。

「学校」はどうあるべきなのでしょう。みなさんの「学校」をめぐる思い出は何でしょうか。「言葉の広場」への投稿をお待ちしています。

締め切りは6月6日（郵送の方は当日必着）。応募規定は「言葉の広場」と同じです。お待ちしております！

か説明し、手厚い対応をしてきたことなどが挙げられる。

このリーダー4人のうち3人が女性であることは特記すべきだ。対照的に感染を過小評価してきたアメリカ、イギリス、ブラジルの首脳（いずれも男性）は、表彰台からは遠い。

日本のリーダーはどうだろう。これまでの迷走ぶりを見る限り、すでに敗北を喫して

いると感じているのは私だけだろうか。

コロナ禍に思う

高橋 祐二

このように短時間で世の中が変容するとは、思いませんでした。日に日に、国民の生活が縮小し、外装は整備された社会システムが、白アリにでも食い荒らされるように機能不全に移行しているように